

数 学



国際科学オリンピック

輝く力

本年7月2〜13日の日程で千葉市を中心に、幕張メッセ、アパホテル&リゾート東京ベイ幕張などで第64回国際数学オリンピックが開催されます。昨年は久しぶりにノルウェー・オスロでリモート大会ではない国際数学オリンピックが行われました。

昨年の第63回

ノルウェー大会では、104カ

国の参加でした

が、今年の日本大会では116カ国（5月18日現在）と去年より増えて過去最大参加国の予定です。

約6年前ごろから準備をし、この前開かれた実行委員会は30回に及びます。この間、2019（令和元）年イギリス大会、2020・2021（令和2・3）年ロシア大会（リモート）、2022（令和4）年ノルウェー

7月、千葉で20年ぶりの国際大会

大会、2023（令和5）年日本大会、2024（令和6）年イギリス大会、2025（令和7）年オーストラリア大会のところで決定しています。本年の日本大会は、7月2〜13日まで千葉県で開催されます。6月にPSC（問題選定委員会）が日本に早く来て集まり、SLP（ショートリストプロブレム）を作成します。それをベースに相談の上で投

詳細は7月2〜6日に団長団が集まり、7月6日にコンテストが到着します（ただし、それより早く到着する国もありますが、その場合の費用は各国負担）。宿泊ホテルは最大4千人が泊まれるアパホテル、試験会場はその近くにある幕張メッセです。コ

ニランドなど）や交流を行います。7月12日の午前中はファイナルジュリーミーティングを行い、各メダルの人数、ボーダーなどを決定します。国際数学オリンピックのルールで参加人数の約12分の1が金メダル、12分の2が銀メダル、12分の3が銅メダルと、約半分のコンテストアントがメダルをもらえます。

票し、実際に出題する問題が決定します。ちなみに、国際数学オリンピックのルールで作成されたショートリスト

本に來ます。日本側のスタッフも入れると、1200〜1300人が日本大会に関わることになる

つを行う予定です。20年ぶりの国際数学オリンピック日本大会まで、あとわずかです。実行委員会の方々に尽力いただきながら、実施に向けて頑張っているところです。

は、来年の国際数学オリンピックが終わるまで秘匿にされます。国際数学オリンピックに採用されなかった残り20〜30問の問題は、それぞれの国の選抜問題に使われる可能性が高いからです。

7月7日は開会式、7月8日は第1日試験、7月9日は第2日試験、7月10、11日は試験答案を主催国と各国で別々に採点し、その擦り合わせを行います。その間にコンテストアントは観光（今年はデイズ

（藤田岳彦・公益財団法人数学オリンピック財団理事長、日本数学オリンピック実行委員会実行委員長、中央大理工学部教授）

グループや東京ブラスタイルを招き、文部科学大臣もあいさ